

祇園橋写真集



柳と祇園橋

かつて祇園橋周辺の河岸には、多くの柳の木があったというが、河岸改修や枯れたりして、現在はただ一本だけ残っている。

一本の柳が、祇園橋周辺の景観を一段と引き立たせ、かつ和みを与えてくれる。祇園橋と共に、この柳の木も守りたい。



天草では珍しい
雪の祇園橋





がっちりした岩盤が支える祇園橋
 何でも基礎が大事だが、祇園橋も堅
 固な岩盤にしっかりと支えられている。



祇園社から見た祇園橋
 何処から見ても優美な橋、祇園橋



満潮の祇園橋
 橋が水面に影を作る「逆さ祇園橋」
 を狙っているが、なかなかチャンス
 がない。



下流側から見た構造。
 下の写真と合わせてみると、一番下流の脚柱が、やや斜めになっているのが分かる。
 これが、橋を洪水から守る匠の為せる技だ。



強固な祇園橋

石橋は優美さと強固さを兼ね備えているが、祇園橋はその典型。



一見、積木細工のようにも見えるが、架橋から百八十年もの長き間、自然の猛威に耐えてきた堅牢な祇園橋。
 決して積木細工ではない。匠の技そのものだ。



何事も基礎が大事。祇園橋もしっかりと強固な岩盤が支えている。ただし、コンクリートは近年の補修。

基礎がしっかり





往還橋として架橋された祇園橋。
柱と梁に支えられているとはいえず、桁石もがっちりとして、人馬の往来の安全を支えている。
これまで、何人の人々が、この橋を渡ったことだろうか。



祇園橋のもとに、僅かに残されている当時の石垣。
野面積みという工法で造られている。

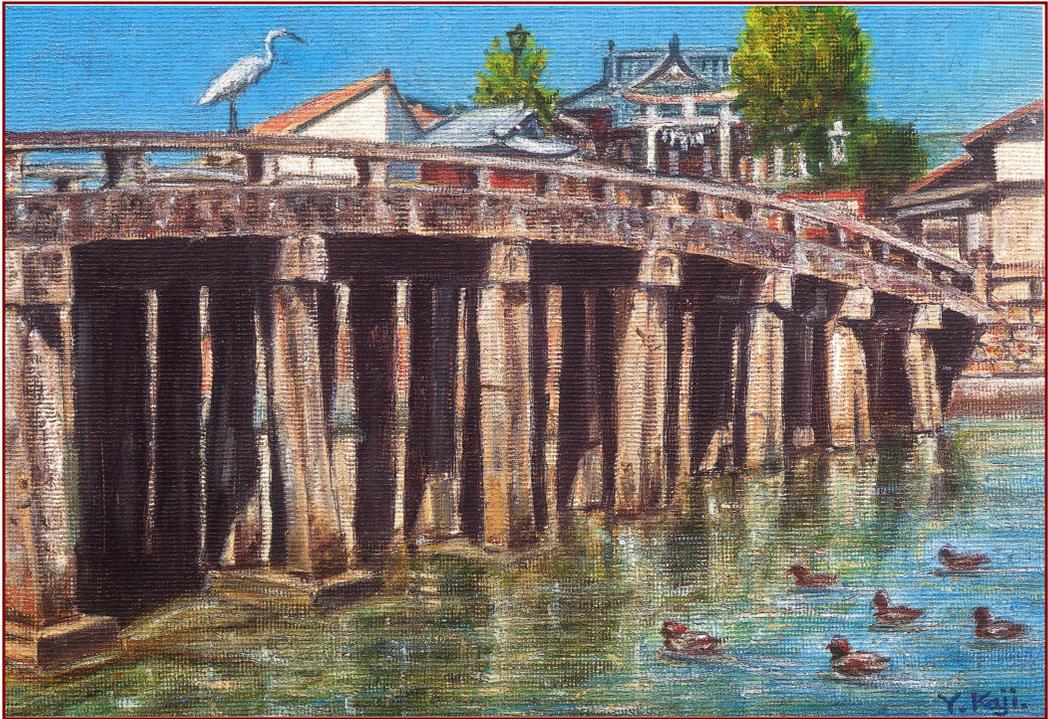


架橋記念碑
架橋の貴重な生き証人の架設記念碑
文書が残っていないだけに、架橋の様子を伝える唯一の史料だ。



かつて祇園橋の袂に榎の巨木聳えていた頃の祇園橋

撮影・提供 故梶原嘉辰氏



描画・提供 故梶原嘉辰氏

梶原さんは昭和3年（1928）の生まれ。

筆者が梶原さんに初めてお目にかかったのは、故郷土史家の鶴田文史先生関係か、カラオケ同好会か定かでないが、常に温厚な笑みを浮かべている、愛すべき先輩であった。梶原さんは、2015年8月7日に亡くなられたので、彼とのお付き合いは、ごく短いものであった。その短い間に、三冊の梶原さんのスケッチ著作「スケッチ点描」を頂いた。また、カラオケでは、彼の独特の歌声は、今でも耳に残っている。

筆者的には、超先輩であるが、愛して止まない先輩であった。

前頁の写真は、初版出版後に頂いた写真である。彼もまた、祇園橋を愛していた一人であることが、この一枚の絵からもよく分かる。

写真を撮る。絵を描く。洪水の時、川上から流れてきたがれきを撤去する。ただ眺めに行く。人それぞれ、祇園橋に関わることはあろうが、多くの市民に愛されてきた祇園橋。

今後も、末永く、健気に、市民の誇りとして残らんことを祈る。